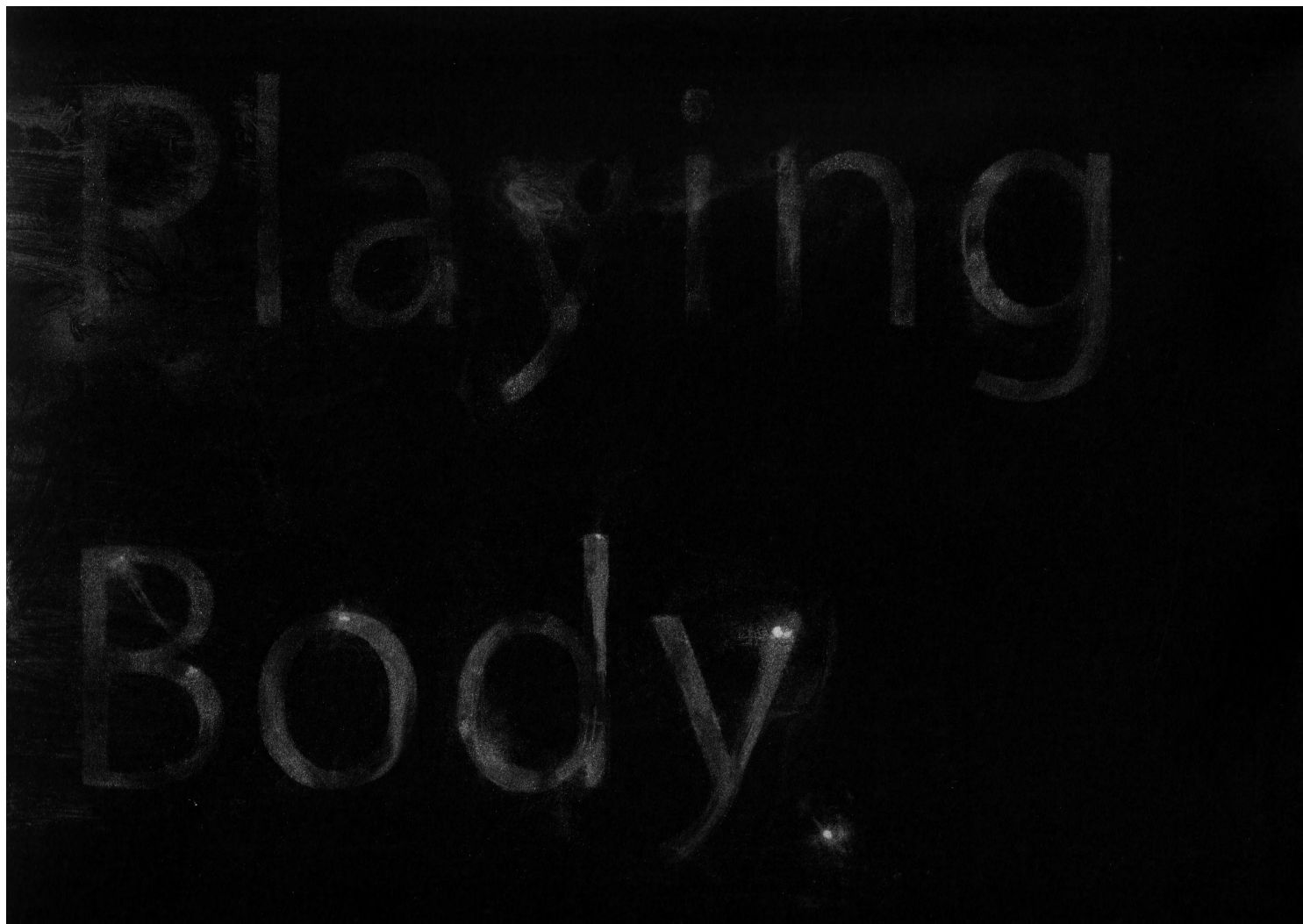


BAPOVA

BANJO



Playing Body

遊動躰

Hayashi Aoi

林 葵衣

Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] では、2020年3月13日（金）から3月29日（日）まで、林葵衣による個展「Playing Body : 遊動躰」を開催いたします。

2013年に京都造形芸術大学修士課程を修了した林葵衣（はやし・あおい / 1988年・京都府生まれ）は、学部在学中より現在まで、オブジェや平面、映像やパフォーマンスなど、多様なマテリアルやメディアを用いた作品制作・発表に取り組んでいます。しかし、これまでのおもな作品を見返した時、その多くに「文字・言葉」を要素としたものがあることに気づきます。

たとえばアルファベットスタンプによって「R・E」の文字が無数に複製・反復される「RE」シリーズ作品は、身体が起こす反復のズレによる秩序と混沌が綯い交ぜとなった画面が現れるもので、「RE（繰り返し）」が繰り返されることでその「文字・言葉」としての意味が解体・消失されていくとともに、そこに新たなイメージが再構築されます。「C・M・Y・K」や「R・G・B」がそれぞれの色で一文字ずつスタンプされたガラス板は、その組み合わせによりそれぞれ言葉・意味・イメージに再構築することができますが、同時にそれらはひとつに一元化されることなくズレ続ける関係を見せます。とりわけこれらの作品は、文字と言葉の狭間にある「記号」という性質に着眼したものであり、記号はそこに意味とイメージを残しながらカタチとしても扱われることで、鑑賞者に分解と再構築を促します。また、場や人に紐づく記憶から起こしたテキストを、口紅を塗った唇を支持体に押し当てて発話し、そこに運動の痕跡を記録する《唇拓》は、「文字・言葉」を「書く：読む：聞く：見る」という身体・行為へと分断・還元することで、そこに起こる伝達と変容の体験を鑑賞者に促します。

林は「文字・言葉」への興味を始点に、現在は身体や記録、行為に注目した作品に取り組んでいます。また、これまでの作品はこの一連の流れの中で、都度の興味や好奇心を寄せて制作されたものであり、これらの作品は制作された時の林の身体・行為の記録でもあるといえます。本展は2008年から2020年までの林の作品に、新作を加えた展示となります。これは、「現在」の作品を始点に、過去作品をその時々自身の記録として、それらを「譜面のようなもの」として、今一度読み直してみる機会として設定されます。

過去の作品を一旦は意味や文脈からズラし、現在の身体でなぞることでそこから何を取り出すことができるのでしょうか。これまでの林の作品を概観するだけでなく、現在とこれからへの眼差しを伺い知ることができるこの機会をぜひお楽しみください。



《 声の解体 / scrap of voice 》

2019 木枠・糸・口紅

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 **Playing Body 遊動躰**

出展作家 **Hayashi Aoi 林 葵衣**

会 期 2020年3月13日[金] — 3月29日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ22:00まで

関連イベント **パフォーマンス「躰の延長」 林葵衣×今村達紀 3月15日[日] 17:00~ 予約不要・入場無料**

3フロアに渡る会場を舞台に解体・再構築をキーに「新作を展示する」パフォーマンス。

*パフォーマンス中、会場内をご自由に移動いただけます。またパフォーマンスの様子は会期中に映像展示いたします。その他につきましては下記をご覧ください。

主 催 ギャラリー・パルク

料 金 無料

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F **MAP**

ア ク セ ス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。

室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL 075-231-0706 FAX 075-231-0703 MAIL info@galleryparc.com HP www.galleryparc.com

『新型コロナウイルス感染症への対策について』【3/8現在】

ギャラリー・パルクでは、以後に予定しております展示会などについては平常通り開催いたします。ただし、今後の状況によっては会期・内容などが変更となる場合がございますので、最新の状況については、随時、WEBサイトやSNSでご確認ください。

ギャラリー・パルクでは新型コロナウイルス感染症への対策として、ドアや手すりなどのアルコール除菌、室内換気。スタッフのマスク着用。イベントなど当日ご参加いただけない場合でも、後ほど内容をご確認いただけるようなイベントの記録・公開、などに取り組んでいます。

【ご来廊のお客様へのお願い】

- ・手洗いなどの励行をお願いします。また、二階カウンターにはアルコール消毒液を設置しておりますのでご使用ください。
- ・咳やくしゃみなどの症状がある場合は、マスク着用等の「咳エチケット」にご協力ください。
- ・発熱や風邪のような症状のある方は、無理をなさらず、必要に応じて医療機関や各種窓口へご相談ください。

皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



《水の発音》

2016 板ガラス、ルーター

生体は解体と構築をくり返す。

2008年頃の初期作から現在までの作品を改めて見返したとき、作品を作る過去の自分の手の動きや息遣い、声、体の動きが譜面のようにそこにあった。

譜面をもう一度読みなおし、作品がまとう遊んでいるような体の気配、様々な像として浮かぶ“わたしだったもの”と対話をする。

身体をつづきへの想像力

声・行為・視線

これらをキーワードに、2008年から2020年までの12年間に林が制作した作品、最新作をあわせて展示する。

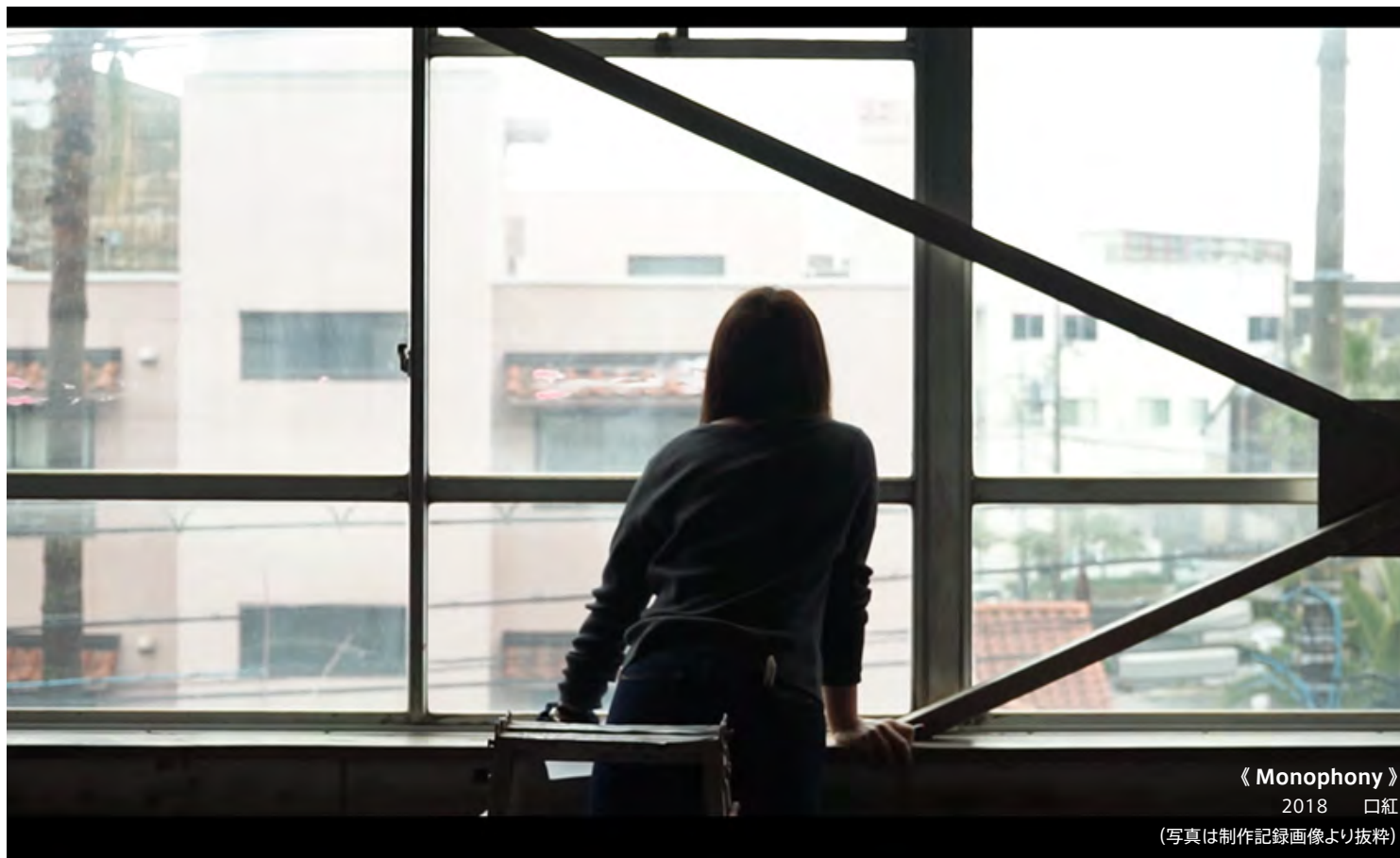
アルファベットスタンプを使用し身体が起こす反復のずれを確認する「RE」シリーズ

発声を出す際の口の形板ガラスにルーターで彫る《tongue score》

直線を引く手のストロークや腕の動きを金属粉で描く《Playing Body》

他者が話す言葉を自身が再度発話しなおす様子を記録した映像作品《lip synch》

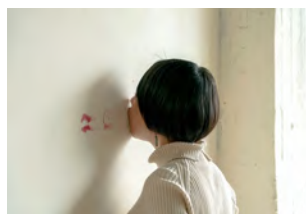
一見するとそれぞれは個別のテーマをもとに作られた作品だが、制作年代をもとに一本の糸を辿るように構成することで、それらの再接続を試みる。



《 Monophony 》

2018 口紅

(写真は制作記録画像より抜粋)



林 葵衣 Hayashi Aoi
<https://hayashiaoi.tumblr.com>

1988 京都府出身

個展

- 2019 詩の復唱 | KUNSTARZT・京都
対話の時間 | 黄金4422bld・愛知
- 2018 しつらえ | AWOMB・京都
- 2017 声の痕跡 | KUNSTARZT・京都
- 2016 水の発音 | アートスペース虹・京都

おもなグループ展

- 2019 京都府新鋭選抜展 | 京都文化博物館
チャリティ&オークション展 小さいわたしたち Who are we? | +1art
A stop by on a whim | INCLINE
第六回アラタパندان展 | 名村造船所跡地
- 2018 VOCA展 | 上野の森美術館
第五回アラタパندان展 | 名村造船所跡地
- 2017 アート/メディア - 四次元の読書 | 国立国際美術館
非在の庭 最終章 | アートスペース虹

舞台美術

- 2019 擬境 | THEATRE E9 KYOTO・アトリエ銘苅ベース(沖縄)
- 2018 文字移植 | こまばアゴラ劇場
- 2017 ディクテ | アトリエ劇研
- 2018 文字移植 | アトリエ劇研・ぼんプラザホール(福岡)

受賞歴

- 2015 芦屋市展 | 芦屋市立美術館/吉原賞

パフォーマンス出演

- 今村 達紀 Imamura Tatsunori
<http://imamuratatsunori.net>
<https://www.facebook.com/imamuratatsunori>
<https://twitter.com/titanura>

1981年愛媛県松山市に生まれ。

大学から演劇をはじめその延長で踊りをはじめる。
劇場以外にも教会、寺、バー、ライブハウスなど様々な場所で踊る。
最近では野外で録音した音、紙に描かれた地図や化学式などをつかってソロパフォーマンスも行っている。
ある音楽家にいわせると、「光の射す厨房で和菓子を丹精につくっているような」ダンスを踊る。